

「事前打ち合わせ会」の様子と交流の様子

■ 「事前打ち合わせ会」の様子

- 特別支援学校の教員がBさんの普段の様子を説明するとともに、Bさんの保護者が交流への希望や期待を伝えました。地域指定校の教員と直接話げできたことで、保護者は安心して交流活動を始めることができました。また、地域指定校の教員もBさんのことを知るよい機会となりました。
- 「校内探検」では、Bさんは最初緊張していましたが、教室などを見学するうちに、少しずつ緊張が和らいだ様子が見られました。

■ 交流活動の様子

- 交流は、お楽しみ会やこども祭りを中心に行いました。事前に学級活動の時間に話し合っていたため、地域指定校の児童はBさんのペースに合わせて付き添い、優しく言葉をかけることができていました。
- また、ゲームや出し物では、地域指定校の児童がBさんに合わせたルールを作ったことで、Bさんは楽しく参加することができました。
- こども祭りのとき、地域指定校の児童がBさんに接する姿は、他の学級の児童にも伝わり、多くの児童がBさんに優しく接する姿が見られました。

「事前打ち合わせ会」の成果

本交流事例では、「事前打ち合わせ会」を実施したことにより、以下のような成果がありました。

- (1) 地域指定校の学級担任が、「事前打ち合わせ会」でBさんへの理解を深められたため、学級の児童にBさんのことについて、適切に理解を促すことができました。
- (2) Bさんは「校内探検」を経験したことにより、安心して交流に参加することができました。
- (3) 地域指定校の学級担任が、学級活動の時間に交流活動の充実に向けた話し合いを設定したことで、地域指定校の児童同士がBさんへの関わり方を考えることができました。
- (4) Bさんの保護者からは、以下のような感想が聞かれました。
 - ・ 事前打ち合わせをしていたお陰か、こども祭りではお友達がずっと側にいてくれて、Bは落ち着いて楽しむことができました。学級以外の子もBのペースに合わせてくれて、学校全体で受け入れてくれる気がして嬉しかったです。



この事例から、「事前打ち合わせ会」や「校内探検」の実施は、地域指定校の児童・生徒が理解を深めたり、特別支援学校の児童・生徒が安心して交流したりすることにつながるため、意義があることが分かりました。

【事例③】 交流の充実につなげる「理解推進授業」の取組

事例の概要

【肢体不自由特別支援学校小学部1年生 Cさん】

地域指定校の児童・生徒に、障害のある児童・生徒に関する事前の情報が不足していると、実際の交流場面においてどのように接してよいか分からなかったり、必要以上に関わり過ぎてしまったりすることがあります。

そこで、本事例では、肢体不自由特別支援学校の特別支援教育コーディネーターが地域指定校において、交流する児童の紹介や障害の理解（肢体不自由の疑似体験）などを内容とした「理解推進授業」を行いました。

その結果、地域指定校の児童は、障害のあるCさんへの理解を深めるとともに交流への期待感を高め、実際の交流場面ではCさんの障害に配慮した適切な関わりができました。そのため、Cさんも安心して交流に参加することができるようになり、地域指定校での交流を楽しみにするようになりました。

交流活動への期待

【地域指定校の児童への期待】

- 「理解推進授業」を通して、Cさんの生活や気持ちについて考え、Cさんが安心できるような関わり方ができるようになってほしい。
- 交流活動への期待感を高めてほしい。

【Cさんへの期待】

- 地域指定校の児童の働きかけを受け入れ、安心して交流活動に参加できるようになってほしい。

期待する姿を引き出すための工夫

特別支援学校では

■ 授業内容の共有

地域指定校の学級担任に、事前に「理解推進授業」の学習指導案を送付し、授業のポイントを伝えておきました。

■ 分かりやすい資料や活動の工夫

地域指定校の児童が理解を深めやすいよう、写真等を活用した説明を行うとともに、「障害の疑似体験」という具体的活動を設定しました。

小学校では

■ 期待感を高める工夫

ゲストティーチャーが来校して「理解推進授業」を実施することを伝え、授業に対する期待感を高めるようにしました。

■ 授業内容の定着

授業実施後に児童の感想を聞き取り、その内容を実際の交流場面における支援につなげられるようにしました。

「理解推進授業」と交流の様子

■ 「理解推進授業」の様子

- Cさんが、特別支援学校でどんな生活を送っているのかを説明すると、地域指定校の児童はとても興味深く聞いていました。特に、給食の食形態に関心を持ったようです。
- また、「疑似体験」として、児童が軍手をして折り紙を折る活動を行いました。子供達は悪戦苦闘していましたが、「難しかった」「時間がかかるけど、自分でやりたい」などの感想を聞くことができ、障害のある人との接し方を考えるきっかけとなりました。
- Cさんの紹介をすると、地域指定校の児童からは、「近所で会ったことあるよ」とか、「早く一緒に遊びたい」といった声がありました。

■ 交流活動の様子

- 実際の交流場面では、地域指定校の児童がCさんと目線を合わせて話しかけたり、大きな声を出さないようにしたりと、Cさんの障害や気持ちに配慮した関わり方をする場面が見られました。Cさんも楽しそうでした。

「理解推進授業」の成果

本交流事例では、「理解推進授業」を実施したことにより、以下のような成果がありました。

- (1) 地域指定校の児童が、「理解推進授業」で学んだ内容を大切にしてCさんに接してくれたため、Cさんが安心して交流活動を楽しむことができました。
- (2) 地域指定校の児童が、Cさんだけでなく、特別支援学校に通う他の児童にも積極的に声をかけてくれるようになりました。
- (3) 地域指定校の児童が、「理解推進授業」で学習したことを家庭でも話題にしてくれたことで、地域指定校の保護者にもCさんや特別支援学校への理解が広がりました。
- (4) ゲストティーチャーとして、特別支援学校の特別支援教育コーディネーターが地域指定校において「理解推進授業」を行ったことは、地域指定校の児童の交流への期待感を高める上で有効でした。
- (5) Cさんの保護者、地域指定校の学級担任や特別支援教育コーディネーターからは、以下のような感想が聞かれました。
 - ・ 街中で会うと声をかけてくれるようになりました。(Cさんの保護者)
 - ・ 交流を行う前に、Cさんの様子や接し方を知ることができて良かったです。(地域指定校の学級担任)
 - ・ 他の学級でも、今回の授業を参考に、障害理解の授業を行いたいと思います。(地域指定校の特別支援教育コーディネーター)



この事例から、「理解推進授業」には様々な効果が期待できることが分かりました。